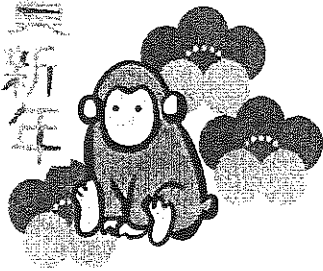


恭賀新年



わかやま

No.18

和歌山県精神保健福祉センターだより 2004年1月

「新しい精神医療と医学を目指して」

和歌山県立医科大学 神経精神科教授 篠崎 和弘

和歌山県立医科大学の神経精神科の教授として平成15年6月に赴任しました。どうぞよろしくお願ひいたします。昭和20年の創立より、神経精神医学教室は木村潔、大沢安秀、東雄司、吉益文夫の先輩に引きつがれ、小職で5代目になります。

昨年の和歌山の精神医療のニュースを思いつくままに拾い上げてみると、人権委員会が各精神病院に設置され活動を開始しました。「麦の郷」が日本精神神経学会・精神医療奨励賞を、「やおき会」が保健文化賞を受賞しました。それぞれの設立は昭和52年と平成元年です。国の社会復帰促進政策が始まったのが平成8年の「障害者プラン」です。そのはるか前に、手作りで立ち上げ発展させてこられたのですから、先進性の素晴らしさは当然ですが、今日までの道程の困難を克服できたのは、いろいろな職種の関係者の皆様のチームワークの賜物と思います。

精神医学・医療がこの数年で大きく姿を変えています。人権保護と社会復帰促進の政策、新しい疾患分類体系の普及、新しい薬の登場、非侵襲的脳機能画像の普及による新しい症状・疾患モデルの登場などがあります。これらの変化は幸いにこれまでのところ精神疾患の理解を深め、治療の選択肢を増やし、社会復帰を促進し、患者の可能性を豊かなものにしてきたといえると思います。

社会が精神医療に期待するところも大きく変わってきています。人口比からみると和歌山の自殺者は近畿圏でも高い値です。うつ状態で深く悩む方の数の多さ、残された家族にのこるこころの傷あとなどを考えると、メンタルケア活動、うつの早期治療などの充実でなんとか防止したいものです。

人権委員会設置、「麦の郷」「やおき会」の受賞をマイルストーンとして和歌山の精神医療がさらに充実したものになりますよう、皆様と力を合わせたいと思います。ご協力をお願い申し上げます。

もくじ

- P 1 新しい精神医療と医学を目指して
- P 2 ニュージーランド精神保健事情
- P 3 粉河町若葉作業所
- P 4 和歌山でのBBS活動について
- P 5 メンタルヘルスニュース
朝井所長のひとりごと
- P 6 は一とふるネットワーク「和歌山市保健所 谷井明子さん」
研修のお知らせ

和歌山県精神保健福祉センター

〒640-8319 和歌山市手平二丁目1番2号 県民交流プラザ“和歌山ビッグ愛”2階

☎ (073) 435-5194 FAX (073) 435-5193

http://www.wakayama.go.jp/prefg/050300/050301

ももたにクリニックの加藤直人さんが、一週間ニュージーランドへ視察にいかれました。
ニュージーランドの精神保健の様子を伺いました。

ニュージーランド精神保健事情

今年6月に1週間ニュージーランド(以下NZ)の精神保健を訪ねる機会があった。少し紹介したい。驚きべきことにこの国は、1980年代後半から脱入院化が進み、それまで人口1万人当たり30床の入院ベット(全国1万~1万5千床)を現在では2.8床にまで激減させていることだ。もちろん単に退院させただけでなく、地域ケアの進展というのが今回の視察目的でもあった。

精神障害者の移送中の傷害事件に端を発し、サービス開発プラン(ブループリント88年)、人権を守る法律(新精神保健法92年、精神障害者サービス法93年)や当事者含むサービス進行チェック機関(メンタルヘルスコミッション93年)の設立を行う。現在では、政府保健省が全国に21の保健区機関を設けている。日本で言えば各県の精神保健福祉センターが政府から資金も充当されて、その地域の保健施策を公的、民間サービスによって組み立てているといったところか。公的サービスがおもに担う部分は、プライマリケア、危機、早期介入、法的入院、長期リハビリなど専門的かつ重篤な医療対応である。民間サービスは地域生活支援を行う。その資金の比率は公的70%民間30%とのことだ。

NZでもアメリカ、イギリスの手法を取り入れ、ACT(アサーティブコミュニティトリートメント積極的(包括的)地域支援)が盛んだ。見学した2ヶ所の病院をベースにしたACT活動は、多職種チームが地域へ出て、必要な投薬治療や生活支援を行う。精神科医のほか、心理士、作業療法士、ソーシャルワーカー、看護師、支援ワーカーが例えば、1日2回、午後2時~10時に訪問し投薬するとか、連絡後4時間以内訪問、緊急

レスパイトケア、デイホスピタルから地域ワーカーへ連携するなどだ。その結果、1つの病院では入院を80%減少させたこと、もう1つのところでは、平均入院回数を4.4回から1.7回に平均入院期間を196日から72日に減らしたと胸を張られていた。その病院の急性期病棟は50床ありシャワートイレつき個室、閉鎖は18床、ナースは24人で3交代、平均在院日数は21~25日、入院後48時間以内に退院プログラムが始まるという早業だ。さらにいえば、その病院、7~8年前まで1200床だったのを一気に縮小したというのだから驚いた。同行した野中猛さんは「急速な脱入院に医療スタッフの意識はついていけたのか?」と質問した。「政府の政策なので病院スタッフも理解していった、例外もあるが」と。

NZには200ほど精神保健の民間サービスを行うNGOがあるという。北島で最大のそれがPathways(パスウェイズ)だ。900床の居住ベット(グループホーム)と4つの労働事業をもち、1日500人に支援している。リカバリーモデルを使いウェルビーイングを目ざす。NZでは当たり前の農場を、NZには珍しい日本の福祉工場形式で経営している。もちろん最低賃金をクリアして雇用するのだ。

最後に、NZの精神保健改革は、ちょうど和歌山で麦の郷運動が始まった時期からと重なっている。日本精神障害者リハビリテーション学会が示した障害者プランの数値目標こそ最低ラインと考え、日本でもやる気になれば可能ではないか。そう思う。



このコーナーでは県下の社会復帰施設を紹介します。
第6回は、粉河町にある「粉河町若葉作業所」です。

粉河町若葉作業所

精神障害者の社会復帰施設として設立された作業所は、1980(S55)年4月に家族会「希望の会」が発足、1982(S57)年に作業所としてウエス作りを始めました。差別と偏見の中で家でしか居場所のなかった子供達の唯一の場として20年の月日が流れました。

県下では「精神障害」の作業所としては草分け的な存在ですが、やっと灯った小さな火を家族・行政・病院(医師、看護師)が消さずに守って来て下さったんだなあ、と今更関係者の方々のご苦労に頭が下がる思いです。

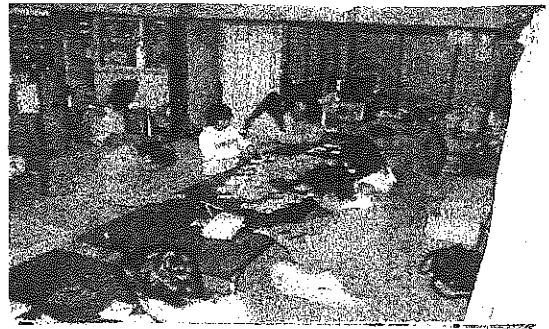
【若葉作業所の活動紹介】

1999年(平成11年)4月から現在の2階建ての家を借りて、6月から午前9時から午後5時の開所時間になりました。作業時間が延びて、ウエスだけでは仕事が少ないので、ウエスの販路を開拓したり、生地を安く分けて下さる店を見つけたりしました。また、ウエスの販路の拡大でまわった老人ホームや病院で、タオルや生活物品の販売が出来るようになりました。

内職も色々な仕事をやりましたが、現在では「お弁当パック」の袋詰め内職等を行っています。どこも同じですが、「不況」でウエスの販売量は減り、内職の単価も下げられています。メンバーさんの工賃は多い時には皆勤の人で1ヶ月25000円以上の時期もありましたが、今では多い人で1万2~3000円、平均で7000円位です。作業所の登録人数は16名(男性12名・女性4名)で、那賀郡6町、かつらぎ町から通所しています。

午前9時に開所、午前9時20分から10分間ミーティングで、1日の予定・週の予定の確認・作業の配分・欠席者の確認等を行います。そして、午前9時30分から午前10時15分の45分間は作業。午前10時15分から午前10時45分の30分間は休憩時間。午前中のこの休憩時間に『くじ引き』をして、その日のお茶・掃除機かけ・トイレ掃除当番を決めます。午前10時45分から午前11時30分までの45分間は再び作業。午前11時30分から午後1時までには昼食とお昼の休憩時間。(1時間30分とっていますので、昼食はお弁当持参の人、職員が車を出して近くのスーパー等へお弁当などを買いに行く人、または駅前の食堂などへ食べに行く人、と色々です)。午後4時5分間は作業をし、30分間の休憩。再び45分間の作業をして午後3時に1日の作業終了。午後3時30分頃には、メンバーさん達は帰ります。

その後の時間に、職員がその日の作業(内職)の検品・納品。またその日の各メンバーさんの様子などの話、次の日の作業準備等で1日が終わります。



【レクリエーション】

昼食会は月に1回。日帰りバス旅行は年に1回行われます。この日はみんなとても楽しみにしています。毎年11月には「粉河町産業祭り」が行われ、6年程前から作業所も出店し、バザー・ジュース・ポップコーンの販売をしています。

【若葉作業所のメンバーさん】

若葉作業所のメンバーさんは、開所当時の人が3名、10年以上の人は半数近くになります。年齢も61才から26才と幅広く、入院体験の話題・自分が飲んでいる薬の話題・病状の話題・就労の話題・世間の出来事などを話しています。そういう話題を聞いていると各メンバーさんの「喜怒哀楽」があり、みんな思いやり深く、仲が良いです。

【今後の課題】

若葉作業所が出来て20年余り、時代の流れと共に精神保健分野も大きく変わって来ましたが、不況(内職が減り、収入減)・財政危機(補助金の削減)など、作業所をとりまく環境・情勢は決して明るくはありません。

作業所が「社会復帰」から「社会参加」、そして「自己実現」へと変わりつつある中、多様なニーズに応えられる作業所づくり、あるいは職員の質の高さも求められて来ています。メンバーさんの「意欲」を引き出し、親亡き後の生活の事なども共に考えていけるように、地域とのネットワークづくりを積極的に推進していかなければならないと思います。

連絡先 〒649-6531

和歌山県那賀郡粉河町1862

粉河町若葉作業所

TEL 0736-73-3744



このコーナーでは、シリーズで県内の組織やグループの活動を紹介します。
今回は、和歌山BBS連盟の高垣晴夫さんにお話を伺いました。

和歌山でのBBS活動について

はじめまして、私たちは和歌山県BBS連盟です。

特に、私たちの活動の中でも、和歌山県精神保健福祉センターの方々には、日本の中で都道府県別の人口比率で見た場合、極めてその率が高い薬物乱用の状況にある人達の立ち直り支援の「和」を広げる活動について、ひとかたならないご尽力をいただいております。今回は、私たちの活動を紹介までしていただける事になり、会員一同感謝しております。

BBS運動とは、**B**ig **B**rothers and **S**isters **M**ovmentの略称で、1904年に米国のクルーターという青年が呼び掛けて始まった運動で、その名のとおりに「兄」や「姉」のような身近な存在として、全ての少年たちが健やかに成長することを願い活動している自己責任による青年を中心とした運動です。

日本では、昭和22年2月22日に京都の学生が、終戦の混乱の時代の中で彷徨う少年達を親てクルーターと同じように呼び掛けたのが始まりで、現在国内では約6,000人の仲間が約600の地区会を作って犯罪や非行のない明るい社会の実現を目的に、友愛と奉仕そして共感を理念に運動をしており、世界中でも、それぞれの地域の青年が少年たちと交流しています。

私たち和歌山のBBS運動は、昭和28年6月1日に初めてのBBS運動の団体として「和歌山市BBS連盟」が発足したのが始まりで平成15年に50周年を迎えました。

現在、和歌山県内には、和歌山市BBS会、海南市BBS会、有田地区BBS会、九度山町BBS会、そして平成12年に発足した高野山BBS会がありBBS運動を広げるための活動を行っています。

すべての少年たちが、安全で、自由に、そして、自信を持って、育っていける社会環境を実現するために、少年たちと一緒に学んだり、遊んでもらったり、体験したりするために、学習指導・映画会・ドミノ大会・ふるさと双六大会・熊野古道ウォーク・科学実験教室・バルーン教室・薬物乱用の怖さの啓発・薬物依存からの立ち直り支援・ファミリーキャンプ・就職相談・ボランティア体験による社会参加啓発・海外派遣研修・少年問題の相談・少年達への絶命的危険排除活動・少年関連行事のプランニングとコーディネイト、高野三山BBS饅頭の普及・BBS運動についての出版活動・動物ふれあい体験教室・ヤングサンタ・社明除夜の鐘・プレイパークの普及・小学校留学・ユニバーサルデザイン（色覚バリアフリー）の普及、安全安心なまちづくり、人権文化の創造などの実践活動をしています。

そして、わかやま青少年プラン『こころ豊かでたくましく未来に挑戦する青少年』を育むために、どんな時でも、次の言葉を大切に、少年を信じて待ち続け活動をしています。

・・・生まれながらにして 悪い子はいない・・・



このことは、人は生まれた時には無の状態であり、そして生きていく環境の中で価値を見つけ、その価値を大切に、時には縛られたりもするものだと思います。

また、いろいろな団体との話し合いを通して、子どものサポートでは同じ価値観を持っているような気にはなるのですが、全く同じ価値観を持った人や活動はないことにあらためて気づかされます。この上で、多くの人が共生していくためには、お互いを励まし合い、価値の多様性を認め、自らも価値の変換が出来る柔軟さが必要であり、このことの大切さを多くの人に理解してもらいたいと思います。

そのためには、一つの価値を握り続けるのではなく、一度その手を離すことによりいろいろな価値が取りあげられると考えています。

今後の重点活動

● 薬物依存からの立ち直り支援の和を広げるため「薬物と依存」をテーマとした講習会を次のとおり開催します。

平成16年1月18日 13:30～ 那智勝浦町体育文化会館

平成16年2月14日 13:30～ 和歌山市内（場所未定）

● 50周年記念事業として、「何でだろう？元年」をスローガンに、全ての事に無関心にならないで生きて行こうと大交流会を行います。

平成16年2月22日13:30～ アパローム紀の国(和歌山市)

どうか、これからもBBS運動にたいしてのご理解ご協力のほどよろしくお願いたします。

連絡先 〒 640-8143

和歌山市二番丁2 和歌山保護観察所内
和歌山BBS連盟

TEL 073-436-2501

HPアドレス <http://www3.ocn.ne.jp/~bbsjapan>



わかやまこころのフェスティバル

あんど

第二回精神障害者ソフトバレーボール大会について

今年度、わかやまこころのフェスティバルは、「ふれあい人権フェスタ2003」と共同開催ということで11月15/16日の両日で行いました。こころのフェスティバルも6年目を迎え、我々精神保健福祉の分野で働く者のなかでは、ある一定の理解を得てきました。もう一歩、幅広く一般の人たちの目にふれる機会をつくっていくために、今回の共催に至りました。

今まで「わかやまこころのフェスティバル」のなかで協力いただいた関係団体（12団体）も2日間にわたり、各ブースで展示や物品販売を行い、精神関係の通りが非常に賑わい豊かな感じを受けました。

二日目は、「当時者バンド：ハルシオン」のコンサートそして池田香代子さんの「講演会：もしも世界が100人の村だったら」と続きます。

歌詞や楽曲を再現できないのが残念ですが、「サービスの受け手」ではなく、明らかに「サービスの提供者」としての「ハルシオン」の姿に、次の講演者の池田さんやみんなが、素直に感動したとの感想が多く聞かれました。池田さんには、「もしも世界が100人の村だったら」の民話の話以外にも、ご自分の心の病に対する考えや体験を通して、一般の方々に切々と訴えていただきました。来年度も共同開催していけたらいいと思います。

7月の中頃、日本精神保健福祉連盟から、「今年度、第二回精神障害者ソフトバレーボール大会近畿ブロック大会を和歌山でやってほしい」と突如電話がありました。普通ならば、年度の事業予定も下期に集中するなか、また、スポーツなんか全く経験のないセンターの職員が、果たして短期間で他府県との交渉や広報、また運営の準備などぬかりなくやっていけるだろうかということでお断りするのですが、職員の熱意が上回ってお引き受けすることとなりました。

そうしているうちに、11月28日の当日を迎えました。近畿各府県から16チーム（うち県外5チーム）が参加し、審判は県のバレーボール協会の方々をお願いをし、ボランティアさんは50名近く集まりました。当初は、県内のチームは決勝リーグに1チームも出場できないのではと言われていましたが、予想は大きくはずれ、田村病院（準優勝）、和歌山市保健所、新庄別館と和歌山パワーを見せてくれました。最終的には、大阪府の新阿武山病院が優勝しました。なお新阿武山病院は、来年11月、埼玉県で行われる全国大会に出場できる権利を得ました。

精神障害者のスポーツに対しては、課題は多いのですが、当事者の力をもっと引き出しながら次に続けていきたいと考えています。

電話相談

精神障害者の人権110番

2004年2月7日(土)・8日(日)

AM. 9:00 ~ PM. 9:00

TEL. 073-402-3681

(FAX. 073-402-3682も利用できます。)

おなじ悩みや経験を持つ当事者が相談を受けます。

■たとえばこんな方

精神障害を持つ方。こころの悩みをかかえる方。
その家族やまわりの方。

■たとえばこんなとき

とにかくただ誰かに話を聞いてもらいたいとき。
ひとりぼっちで話し相手がいないとき。
病気や障害のことなど情報を知りたいとき。
同じ悩みを持つ人と話したいとき。

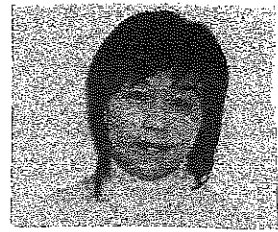
主催：和歌山県精神障害者団体連合会（わせいれん）

朝井所長のひとりごと

正月だけは日本酒を飲む期間と決めている。12月31日の夕から酒一合を飲み、1月1日からは昼に一合・夕に一合と飲み1月4日の昼でおしまいである。29歳の時に精神科病棟の当直室をあけてそこに6ヶ月入院した。それから20年間は禁酒を続けていたが、48歳の6月に古座川町のケースを見に訪問していた時に脳卒中発作がおこり意識消失し和医大までヘリコプターで搬送された。その後麻痺と失語症が残り49歳になってビールを少し飲むと失語症で言葉が出てこない事がそんなに気にならなくなり、それから缶ビール（350cc）を飲むようになり、やがて瓶ビール（663cc）となり、それを現在まで続けている。

好きなのは日本酒だが、GOT/GPTが200~500あたりを示すので飲めない。今年の冬休みの期間に読んだ本は2冊半で、スピードが落ちてきている。それに、阪神タイガースがセリーグで優勝した次の正月なのにそんなに酒がおいしくない。つくづく年齢だなあとと思うこの頃である。

精神保健福祉の第一線で働く関係スタッフの紹介コーナーを作りました。
今回は、和歌山市保健所の保健師、谷井明子さんです。



はーとふるネットワーク



一 市の保健所に就職して何年になりますか？
今年で15年です。精神保健の担当になって7年です。

一 保健師さんになろうと思ったきっかけは何ですか？
看護学校を卒業したら看護婦として働くつもりだったのですが保健所での実習を通して保健師という仕事に興味をもちました。

一 この仕事をしていて良かったと思う時はどんな時ですか？
色々な瞬間にたちあえる事でしょうか。私の場合、精神保健の中でも母子関係の事に関わることが多いのです。その中でも病気がありながらも出産したMさんの事は強く心に残っています。治療が不確実な中で出産し症状が再燃しました。関係機関や家族が濃密に関わって、今ではきちりと治療をうけ、子育てをしてくれています。しかし当時はこんなにしっかりと子育て出来るようになるなんて誰も想像出来なかったと思います。子どもさんの入学式の写真を見せてもらったりしてとてもうれしくなります。

一 精神保健福祉における保健師の役割は何ですか？
生活の視点をもってするという事でしょうか。いつも『あたりまえに地域生活をおくる』とはどういう事なのかという事を考えています。そして毎年新しい相談員が職場にきますが、出来るだけ家庭訪問と一緒に連れ出すようにしています。

一 松岡さんからいつも心を和やかにしてくれるよきパートナーと紹介がありました。違う職種の方とチームを組んでお仕事を進めていく上で、大変なことはどんな事ですか？
私の事だけで言えば苦勞はないかな。それよりも相談する人がいない職場の方がしんどいと思います。自分が抱えている悩みを職場

で共有出来ないというのはしんどい事ではないでしょうか。ただし、職員の少ない職場だと専門職が1人という職場も少なくありません。その点では専門職が7人もいるというのは恵まれていると思います。質問とはずれるかも知れませんが、職員の共通認識を得るということで、毎週1回カンファレンスをもっています。全体的な仕事に関することや事例について話し合う時間があります。とても重要な時間です。なかには、結構意見をたたかわせる時もあります。それも必要なことだと思います。ただし、いつの間にかその中で私が一番年上になっていましたので、私はお互い何でも言い合える職場だと思っていますが、若い相談員はどう思っているのか、機会があれば聞いてみて下さい。

一 休日ほどのようにして過ごされていますか？
子どもの少年野球の応援で毎週つぶれてしまいます。最初は休日にゆっくりと寝てられない（平日よりも早く起きないと間に合わない）という不満がありましたが、今では応援に行くのが楽しみになりました。大きな声を出して応援するのでストレス解消になりますし、集まった母親同士で普段の愚痴を言い合って一石二鳥です。

一 今後の抱負を教えてください。
私自身いま子どもの虐待に関する事について担当しています。そのことにおけるネットワークづくりを進めていますので、今後は機能が進むようにしていきたいと考えています。

一 谷井さんから、次の保健師さんのご紹介をお願いします。
私と保健学科の同級生で、自宅に温泉をひいていると聞いてうらやましく思っている、温泉パワーと同じく癒しのパワーを持つ田辺保健所の東さんを紹介します。

センターの研修のお知らせ

こころの健康講座
日時 平成16年1月19日(月) 18:30～
場所 和歌山ビッグ愛204号室
講演 「笑いこころの健康
あなたの笑顔、なにより薬！
— 笑いが心と体を強くする —」
講師 「元気で長生き研究所」所長 昇 幹夫
(日本メンタルヘルス協会公認真理カウンセラー)
対象 一般県民 定員 80名(先着順)

和歌山県障害者ケアマネジメント従事者養成研修
日時 平成16年2月16日(月)・17日(火)・
3月1日(月)・2日(火)・3日(水)(計5日間)
場所 和歌山ビッグ愛
対象 市町村職員等 定員 40名

社会復帰関連問題研修会
日時 平成16年2月28日(土) 13:00～
場所 プラザホープ
対象 精神障害者の社会復帰支援の従事者
定員 80名

SST研修
日時 平成16年3月11日(木) 12日(金)
場所 ビッグ愛
対象 SST業務に従事するもの(今後も含む)
定員 25名

薬物と依存 ～ 全ての人にリカバー出来る社会を！～
日時 平成16年1月18日(日) 13:30～
場所 那智勝浦町体育文化会館
定員 150名程度
主催 和歌山BBS連盟

県外の研修案内

第28回全国精神保健福祉業務研修会	2/19(木)～2/20(金)	沖縄県那覇市
第3回トラウマティック・ストレス学会	3/4(木)～3/5(金)	東京都千代田区
精神障害者の理解と企業での就労をめざして	3/13(土)～3/14(日)	大阪市中央区
地域災害等におけるPTSD等への 精神保健医療対策に関する専門家研修会	3/16(火)～3/17(水)	東京都千代田区
児童・思春期の心と行動の問題	3/19(金)	東京都千代田区

編集後記

原稿を提供して下さった方の厚い思いが詰まった、1月号にふさわしい内容になりました。私事です、休暇をもらって、「日本子ども虐待防止研究会」に参加してきました。この冬一番の寒い日だったので、京都は雪景色でとてもきれいでした。めったに雪が降らない和歌山にいる私は、寒いのが苦手なはずなのにうれしくてわくわくしました。また、会場は、約2400人の参加者で、熱気ムンムンでした。こんなに虐待予防に関心のある方がいるのだからこれから子どもの虐待の問題も少しずつ良い方向に向かっていくんだろかな・・・子ども達が犠牲になる事のない明るい年になってほしいものです。

